

本をたのしんだ結果の「世界認識の再構築」——大河の一滴の視界



●講師——

寺島実郎さん

(一般財団法人日本総合研究所 会長／多摩大学 学長)

世界の秩序や社会の根幹が大きく揺らぎつつある今、
状況を認識する新たな枠組みが求められている。

民主主義を支える公共概念の問い直し、アメリカ、中国、韓国等との関係の再検討を通して、これからの日本のあるべき姿を問う。
沈み行く日本への実践的処方箋。

いまこそ話を聴くべき最適任の講師をお招きします。
お聴き逃しのないように！

日時 ▶ 2026年4月18日(土) 午後2時～4時30分(開場:午後1時30分)
会場 ▶ 三鷹市公会堂 光のホール (バス「三鷹市役所前」下車〈裏面地図参照〉)
聴講料 ▶ 1500円(学生500円) 当日、会場受付にてお支払い下さい

お申し込み方法

下記いずれかの方法でお申し込みください。定員になり次第締め切らせていただきますので、お早めにお申し込み願います。

1) 当会の下記ホームページにアクセスし、申込みフォームに必要事項を記入してお申し込みください。

▶ インターネット予約開始日時: 2026年2月20日(金) 午前10時

2) 往復ハガキに下記の事項をご記入の上お申し込みください。

▶ 往復ハガキの記載事項: (1) 往信表面の宛先は下記「本

をたのしもう会」事務局。(2) 往信裏面に、①氏名(ふりがな)、②郵便番号・住所、③電話番号、④年齢、⑤同伴者がある場合にはその方の氏名(ふりがな)。(3) 返信表面に、①申込者の郵便番号、住所、②申込者の氏名(宛名)、(4) 返信裏面には何も書かないでください。

▶ お問合せは、ホームページ内のお問い合わせフォームにて承ります。右QRコードか、
<https://npo-honwotanoshimou.com/>

「本をたのしもう会」をご利用ください。



主催: 出版 NPO 「本をたのしもう会」

[本をたのしもう会事務局] 〒180-0004 武蔵野市吉祥寺本町4-31-6-225 (上林 方)

プロフィール

寺島実郎さん（てらしま じつろう）

一般財団法人日本総合研究所会長、多摩大学学長。
1947年北海道生まれ。早稲田大学大学院政治学研究科修士課程修了後、三井物産株式会社入社。調査部、業務部を経て、ブルッキングス研究所に出向。三井物産ワシントン事務所長、三井物産常務執行役員、三井物産戦略研究所所長、同会長、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授、経済産業省・国土交通省・農林水産省・文部科学省・環境省・総務省・厚生労働省・内閣府等の審議会委員や調査会座長等を多数歴任。地方自治体政策アドバイザー、企業・法人の顧問 評議員等の要職を兼務する。

国内はもとより世界全体の動向を精力的な「フィールドワーク」と緻密な「文献研究」に基づいて読み解き、旺盛な著作活動を展開。複雑に絡み合う現



代社会の諸問題をグローバルな視野と社会工学的視点から解析し、未来を見据えた問題提起や政策提言を行う。データに基づく事実分析に歴史的洞察を加えたオリジナルな考察は示唆に富み、言論人として定評を得て活躍中。

透徹した思索と旺盛な情報発信

第15回(1994年)石橋湛山賞受賞作『新経済主義宣言』(新潮社)をはじめ、『世界認識の再構築 17世紀オランダからの全体知』(岩波書店)、『21世紀未来圏 日本再生の構想』(岩波書店)、『ダビデの星を見つめて 体験的ユダヤ・ネットワーク論』(NHK出版)、『人間と宗教 あるいは日本人の心の基軸』(岩波書店)等、多数の著書を数える。

単行本『脳力のレッスン』シリーズ5冊『脳力のレッスンー正気の時代のために』(岩波書店)、『脳力のレッスンIIー脱 9.11 への視座』(岩波書店)、『問いかけとしての戦後日本と日米同盟ー脳力のレッ

スンIII』(岩波書店)、『リベラル再生の基軸ー脳力のレッスンIV』(岩波書店)、『ひとはなぜ戦争をするのか 脳力のレッスンV』(岩波書店)は、2003年以来17年間にわたり雑誌『世界』に欠かすことなく続けられてきた同名の連載を書籍化したもので、氏の問題意識をトータルに理解するうえで必読。

その他近年の著作に『シルバー・デモクラシー 戦後世代の覚悟と責任』(岩波新書)、『ユニオンジャックの矢 大英帝国のネットワーク戦略』(NHK出版)、『ジェロントロジー宣言「知の再武装」で100歳人生を生き抜く』(NHK出版)、『戦後日本を生き残した世代は何を残すべきか われらの持つべき視界と覚悟』(河出書房新社)等がある。

TBS系列『サンデーモーニング』(日曜日 8:00~/月2回程度)、TOKYO MX 毎月第3日曜日 11:00 から発信する『寺島実郎の世界を知る力』は、現在YouTubeでの見逃し配信再生回数は1,256万回を超え、日本における無視できない発言力を持つメディアになっている。



少数の本を自費出版されたい方に朗報です。カラー印刷が白黒印刷に近い低コストで可能になりました。エッセイ、詩歌の本をはじめ絵画・写真集など「本をたのしもう会」のスタッフの方々にもご協力を得て、良い本に仕上げます。ぜひお気軽にお電話下さい。

出版なんでも相談室

デジプロ

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-2 サンエスビル
TEL 03-3511-3001 / FAX 03-3511-3006
<http://www.digi-pro.co.jp>

開催講演会への反響 (2025 年アンケート抜粋)

● 中島岳志さん講演会 (2025 年 4 月 12 日)

「リベラル保守の可能性」

▶ 内容が刺激的で新しい観点や視点を得られた。▶ 死者論・死者の民主主義・死者からの信託など、死者を含めた憲法・民主主義の考え方が新鮮だった。

▶ テーマ設定や構成が分かりやすく、レジュメや資料で理解が深まった。▶ 政治のマトリクス分析や、保守・リベラルの新たな定義・関係性の説明が印象的。▶ 保守とリベラルの二項対立を超えた「リベラル保守」という考え方に共感・納得。▶ 憲法や民主主義の本質、歴史的背景、死者の役割について深く考えさせられた。▶ 講演を通じて自身の政治観や社会観を見つめなおす機会となった。▶ 講師の熱意や誠実さ、幅広い知識に感銘を受けた。



あること、重要ですね。▶ 楽しくてあっという間の時間でした。質疑応答の時間も有意義で勉強になりました。▶ 上野さんのユーモアが最高でした。▶ 「目からうろこ」と思うことも多く、参考になりました。▶ 大変分かりやすいお話で、お話を伺って元気になりました。▶ 老いについて考える材料をたくさんもらった。▶ 今までバラバラに考えてきたことを総合的、歴史的に考える視点を与えていただきました。

● 落合恵子さん講演会 (2025 年 11 月 1 日)

「自分を生ききる 本がここにある充実」



▶ 長い人生を通して培われた信念と優しさがにじむ。生きづらい時代だからこそ、自分を大切に、他人と比べずに「自分を生きる」こと。それが講演

を通して伝わってきたメッセージでした。▶ 共感し感動しました。私は差別される側に立つという言葉に私もそうありたいと思うが、知らず知らずに差別していることもあると思っている。▶ これだけ強い意志と意気をはっきり話せる方がいらっしゃることに心強く感じた。▶ お母さんのお話、とても印象深かったです。▶ お話の中に、人々への思いやり、平和への思いなどがこめられていて身にしみた。▶ 言葉が鮮明で聞きやすかった。現政権への危うさへの思いに同感した。反差別の通底奏音が響いてきた。

● 上野千須子さん講演会 (2025 年 7 月 20 日)

「アンチ・アンチエイジングの思想」

▶ メモを取るペンの動きが止まらないほど、気になる内容が盛りだくさん！ 心に残る内容でした。▶ 講演を聞いて、恐れているよりも準備をして、周りや社会を上手に頼り、老いを受け入れて生きていこうと思いました。▶ 歳をとって生産性に欠けても生きる価値があるんだと思える社会で



「本をたのしもう会」への期待と思い

■ 長年の聴講者 牧野洋子さん(三鷹市)

“何でも新しいのがイイ！”そんな風潮が蔓延し「日本はこれでいいのか？」と悶々としていた頃、『本をたのしもう会』に出会った。出版やマスコミの関係者が運営する団体と聞き、新刊本の販促活動や読書会かと思いきや、錚々たる講師が「いま」について提言する講演会企画で、出会いから早 20 年以上になる。この会に出会わなければ手に取らなかったかもしれない本が本棚に並ぶ。その多くは高校までの教科書で学べなかった近現代史に関する本、私たちは「歴史を学び、歴史に学ぶ」教育の機会喪失世代だ。寺島実郎氏の初回講演で会場購入した署名入り本もある。第 16 回で保阪正康氏の講演を聞き、その後拝読した著書で「近現代史は 14 年で動く」という慧眼には脱帽した。その保阪氏と同じ北海道出身である寺島氏の再登場は奇しくも 14 年半ぶり、署名入り本を再読し、いざ会場へ！

■ 見習い初年 時國滋夫さん(武蔵野市、69 歳)

この会では、活字離れを防ぐために、社会で活躍している人に講演してもらい、参加者には講演を通じて思索をめぐらせ本を読む契機としてもらう活動を年に 3 回行っている。2001 年から 25 年間も続いていることはすばらしく、手弁当で企画・運営をされている方々の努力には頭が下がる。さらに、この方々全員が他人への気配り上手である。まだ一年目で右往左往していて、分からないことがある。たとえば、本を読むことが自分にとって意味があると一度知れば、その人は生涯にわたって活字から離れないと思う。そうであれば、活字離れを防ぐにはその意義を知らない人たち(若年層やふだんは本を読まない人)に対して活動するといいかもしれない。気候変動、地域紛争、感染症流行、AI の急速な発展など世の中は変化・混乱の時期に入っているが、この会がこれからどう展開していくかを内部から見ていきたい。

三鷹市公会堂へのアクセス

● 三鷹市公会堂は三鷹駅から約 2.3km ●

▶ 下記の小田急バスをご利用いただき、「三鷹市役所前バス停」にて下車してください。市役所の右側が三鷹市公会堂です。一部三鷹市役所前を通らないバスもあります。念のためご乗車前にご確認ください。交通事情により所要時間は変動します。余裕をもっておでかけください。

■ JR 三鷹駅南口 (所要時間約 10 分)

- ・ 3 番乗り場 - 66 系統
- ・ 7 番乗り場 - 54 系統・61 系統・鷹 62 系統
- ・ 8 番乗り場 - 59 系統

■ JR & 井の頭線吉祥寺駅南口 (各 所要時間約 15 分)

- ・ 3 番乗り場 - 01 系統、92 系統
- ・ 4 番乗り場 - 06 系統
- ・ 8 番乗り場 - 14 系統
- ※京王バスも運行

■ JR 武蔵境駅南口 (各 所要時間約 20 分)

- ・ 4 番乗り場 - 01 系統



■ 京王線調布駅北口 (各所要時間約 25 分)

- ・ 11 番乗り場 - 14 系統・鷹 66 系統
- ・ 12 番乗り場 - 06 系統
- ※京王バスも運行

■ 京王線仙川駅北口

- ・ 1 番乗り場 - 54 系統 (所要時間約 20 分)



「本をたのしもう会」の歩み

● 講演会 —

第 1 回	2001.11.24	井上ひさし
第 2 回	2002.11.02	落合 恵子
第 3 回	2003.11.08	金子 勝
第 4 回	2004.11.06	中村梅之助
第 5 回	2005.11.05	大岡 信
第 6 回	2006.06.03	長倉 洋海
第 7 回	2006.12.09	石坂 啓
第 8 回	2007.12.02	谷川俊太郎
第 9 回	2008.11.30	上野千鶴子
第 10 回	2009.11.14	澤地 久枝
第 11 回	2010.11.28	辻井 喬
第 12 回	2011.11.12	寺島 実郎
第 13 回	2012.12.08	色川 大吉
第 14 回	2013.11.17	A・ビナード
第 15 回	2014.11.30	内橋 克人
第 16 回	2015.11.28	保阪 正康
第 17 回	2016.06.25	高橋源一郎
第 18 回	2017.06.17	中村 哲
第 19 回	2018.06.30	丹羽宇一郎

第 20 回 2019.06.02

黒田杏子 & マブソン青眼

第 21 回 2022.05.28

中村哲氏追悼

第 22 回 2023.12.09

澤地 久枝、村上 優、谷津賢二

第 23 回 2024.04.27

前川 喜平

第 24 回 2025.04.12

中島 岳志

第 25 回 2026.04.18

寺島 実郎

● 著書を語る、著者と語る —

第 1 回 2013.09.05

池田香代子

第 2 回 〈中止〉

中馬 清福

第 3 回 2014.07.06

辰濃 和男

第 4 回 2015.04.19

大石 芳野

第 5 回 2016.02.27

北村 皆雄

第 6 回 2016.10.30

植木 雅俊

第 7 回 2017.10.21

森本 あんり

第 8 回 2018.10.28

梅田 正己

第 9 回 2020.02.08

米本 浩二

第 10 回 2023.06.03

秋満 吉彦

第 11 回 2025.07.20 上野千鶴子

● 特別講演会 —

第 1 回 2015.06.06 & 07.05

嵐 圭史

第 2 回 2017.03.04

荒このみ & 川本三郎

第 3 回 2018.02.12

木村 栄一

第 4 回 2019.02.11

姜 尚 中

第 5 回 2023.02.26

安田菜津紀

第 6 回 2024.07.13

川本 三郎

第 7 回 2024.10.20

板垣 雄三

第 8 回 2025.11.01

落合 恵子



出版 NPO

「本をたのしもう会」

出版 NPO 「本をたのしもう会」は、広く読書推進活動を行うための非営利グループです。おもに武蔵野市を中心とする多摩地区在住の、志を共にするメンバーが集まって活動しています。読書の面白さや魅力を知ることによって自ら考える力を培い、同時代を生きる人々と交流を深めることで、豊かな市民文化を形成することをめざしています。[第 1 面題字デザイン: 矢崎芳則]